

AutoCADと一体型データ変換ソフト PostScript (PDF)出力

ACDTOPST



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

AutoCAD を利用した変換ソフト【AutoCAD 2002-2018 に対応】

特長

1. AutoCAD (標準版) を利用して、AutoCAD データ (DXF, DWG) を PostScript (PDF) へ変換します。
AutoCAD の印刷機能で HP-GL/2 ドライバに出力し、その HP-GL/2 から PostScript (PDF) へ変換を行います。
2. モデル空間、ペーパー空間共に変換可能です。
3. AutoCAD データに貼り付けられたイメージデータや OFFICE 等の OLE データもそのまま変換可能です。
ただし、出力結果は使用するドライバに依存します。
4. シングルページで出力するか、マルチページで出力するかの選択が可能です。
5. 元の図面サイズを反映して変換できます。この場合は、図面にページ設定をしておく必要があります。
6. ダイアログアプリケーション (GUI) としてもバッチアプリケーション (CUI) としてもご利用できます。
7. バッチ変換による連続実行が可能です。
8. 変換時に、図面のスタイルに設定されているフォントがサポートファイルに存在するかチェックを行えます。
9. 標準版以外の AutoCAD 製品 (AutoCAD Mechanical 等) が同時にインストールされている共存環境での動作も確認できております。(標準版を利用した動作のみの確認となっています。)
10. レイヤーごとに表示・非表示を設定することが可能です。
11. A 系列以外のカスタム用紙サイズ名を変換時に指定することが可能です。
12. 出力した PDF にセキュリティを設定できます。

主な編集機能

- (1) シングルページ / マルチページ変換、縮尺 / 回転 / 原点移動
- (2) モノクロ / カラー変換

注意事項

本アプリケーションを使用するには Autodesk 社製品の AutoCAD (標準版) が必要です。
AutoCAD Mechanical には対応していませんが、AutoCAD Mechanical をインストールする際に同時にインストールされる標準の AutoCAD を使用しての変換は可能です。

対応 AutoCAD

AutoCAD 2002, AutoCAD 2004, AutoCAD 2005, AutoCAD 2006, AutoCAD 2007, AutoCAD 2008, AutoCAD 2009
AutoCAD 2010, AutoCAD 2011, AutoCAD 2012, AutoCAD 2013, AutoCAD 2014, AutoCAD 2015, AutoCAD 2016
AutoCAD 2017, AutoCAD 2018

対応 OS

Windows XP / Windows Vista / Windows 7 / Windows 8 / Windows 10
使用する AutoCAD の対応 OS によって異なります。

標準価格

AutoCAD / PostScript (PDF) 変換

: 35 万円 (税抜き)

基本画面

◆ ファイル設定

入力ファイル名
出力ファイル名
ログファイル名
XML ログファイル名

参照ボタン(ファイルダイアログで指定)

変換設定ダイアログが表示
マルチページやシングルページ、
回転、拡大・縮小等の
変換設定を行います。

出力用紙サイズごとに格納先選択
変換結果を用紙サイズごとに別の
フォルダに振り分けることが可能
です。

出力用紙サイズごとの格納先選択
「格納先選択」ボタンを押すと右のダイ
アログが表示されます。
用紙サイズごとの格納先フォルダを選
択します。参照ボタンからの指定も可能
です。

◆ 出力設定

出力対象空間指定
変換対象をモデル空間とするか、
ペーパー空間とするかを
指定します。

印刷領域指定
印刷領域に「図面範囲」、
「窓」、「オブジェクト範囲」
のいずれかを指定します。

印刷オフセット
印刷オフセットの「印刷の中心」
を指定します。デフォルト
で指定されています。

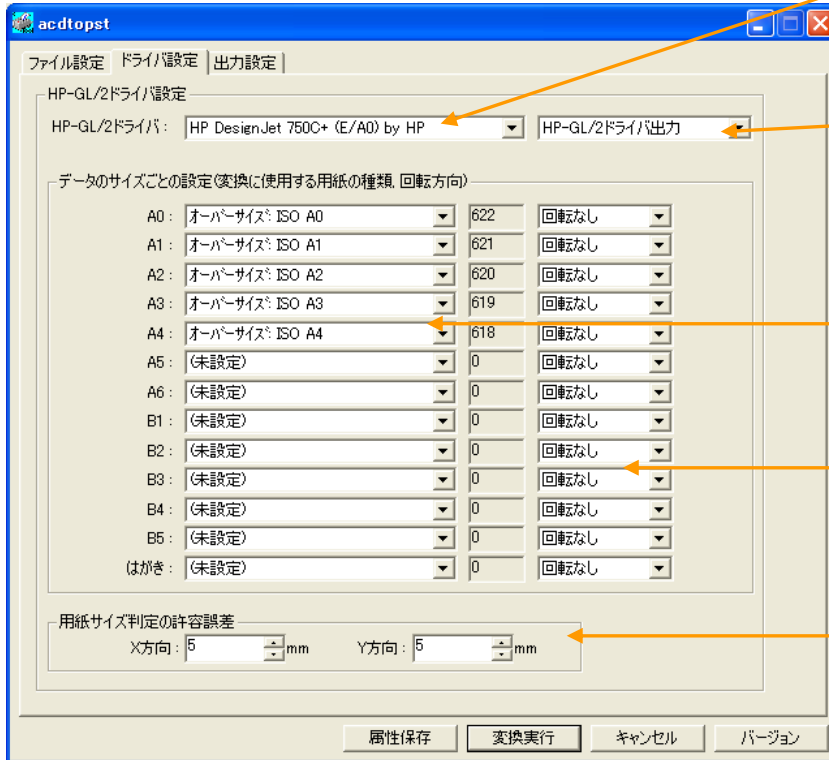
セキュリティ設定
PDF に設定するセキュリティ
の内容を指定します。

印刷尺度
印刷尺度を設定します。
元データに設定されている印
刷尺度の使用も可能です。

レイヤー表示非表示設定
レイヤーの表示非表示を設定
したテキストファイルを指定
します。

窓設定
各レイアウトに最大 8 個の窓
が指定できます。

◆ ドライバ設定



プリンタドライバ名
使用可能なドライバー一覧がコンボボックスに設定されています。

プリンタドライバの種類
「HP-GL/2 ドライバ」を選択します。

用紙
データの用紙サイズごとに、実際に印刷に使用する用紙を指定します。

回転設定
用紙サイズごとに結果ファイルの回転設定を行えます。

用紙サイズ判定の許容誤差
用紙サイズを判定する際の許容誤差を設定します。

※ 入力データ中にある文字列について

HP-GL/2 ドライバから HP-GL/2 を出力し、弊社コンバータ「H2TOPST」により PDF への変換を行います。

入力データに OLE で貼り付けられた Excel の文字列は「ラスタデータ」として出力され、シェイプフォントや TrueType フォントで書かれた文字列は「線分・ラスタ」として、出力されます。

実行時のオプション

変換設定ボタンを押すと下のようなダイアログが表示されます。
HP-GL/2 から PostScript (PDF) へ変換する際の設定を行います。

【スケール関連】

スケール値の指定、オートスケール、A 系列用紙出力、自動用紙調整、用紙方向、トレー選択の指定を行います。

【回転】

0、90、180、270 度から回転を指定します。

【オフセット関連】

オフセット値の指定、自動原点調整、ミラー処理を指定します。

【マルチページ】

マルチページ出力、又はシングルページ出力の指定をします。

【用紙サイズ関連】

元の図面サイズを反映するか、変換結果を指定の用紙サイズに出力するか等を指定します。

【ファイル関連】

変換属性ファイルや、しおりを作成するための設定ファイルを指定します。

【その他】

部数、丁合の指定をします。

パラメータ設定

スケール関連

スケール(S) 0.000000

オートスケール(A)

A系列用紙出力(AL)

自動用紙調整(AJ)

用紙方向(AR)

トレー選択(AP)

その他

部数 0

丁合(NT)

回転

回転(R) 0

用紙サイズ関連

元の用紙サイズを反映する

用紙サイズ(P) A0

ファイル関連

入力属性(I) C:\Program Files\ACD\TOPST\hp2_in.atr

出力属性(O) C:\Program Files\ACD\TOPST\pdf_out.atr

しおり入力ファイル(STX) C:\Program Files\ACD\TOPST\stx.txt

オフセット関連

オフセットX(X) 0.000000 mm

オフセットY(Y) 0.000000 mm

自動原点調整(AG)

ミラー処理(MX)

マルチページ

マルチページ出力(M)

マルチページの分解出力(MFILE)

分解出力

インデックス桁数

レイアウト名称

OK キャンセル

主な制限事項

- ◆ モデル空間とペーパー空間のページ設定で用紙サイズを選択(ページ設定)してください。
- ◆ 変換中に AutoCAD 画面が表示されますが、オペレーティングを行わないでください。
正常に変換が行われない場合があります。
もし、オペレーティングを行い AutoCAD が終了されなかった場合、特に問題はありませんが
手動で AutoCAD を終了させてください。また、非表示の状態ではまっている場合もありますので、
その場合は タスクマネージャから AutoCAD を終了してください。
- ◆ **AutoCAD の LT 版では動作しません。**
- ◆ パラメータは大文字、小文字どちらでも指定できますが、全角文字は使えません。
また、パラメータとファイル名、ドライバ名等の間に空白を入れないでください。
- ◆ 「窓」の範囲はレイアウトごとに指定可能です。レイアウト 1 つにつき最大 8 件まで指定できます。
- ◆ サービス上での動作には対応していません。
- ◆ 本製品は処理時に“通常使うプリンタ”を変更します。本製品使用時には印刷処理を行わないようにしてください。